令和6年度マーケットサウンディング

無電柱化事業における包括発注方式の導入可能性の検討について

令和7年2月10日(月)

熊本市　都市建設局　土木部

道路保全課

本日の内容

1. はじめに ・・・・・ 2

2. 無電柱化事業における現状と課題 ・・・・・ 3

3. 「包括発注方式」について ・・・・・ 9

4. 本日の意見交換について ・・・・・ 14

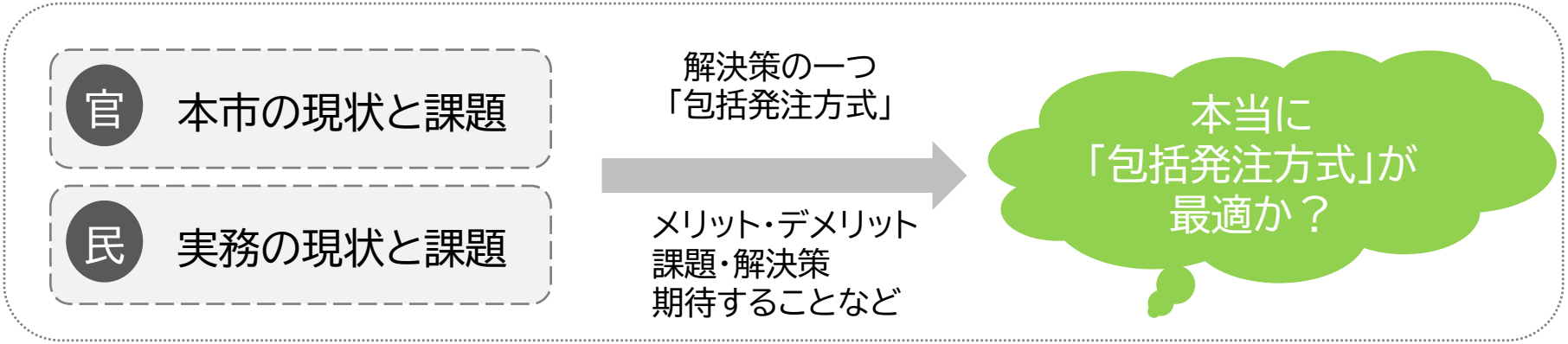
1. はじめに

(1)今回のマーケットサウンディングの目的は…

① 無電柱化事業における「包括発注方式」に対する受注ニーズの把握

② 「包括発注方式」の課題やその解決策について意見交換

地域にとって望ましく、熊本市、事業者の皆様の双方にメリットが大きいような「包括発注方式」の実現の可能性について、ご意見いただきたい



2.　無電柱化事業における現状と課題

(1)無電柱化事業の必要性

道路空間から電柱をなくすことで・・・

防災・減災

安全・円滑な
交通確保

※「令和6年度無電柱化推進に関するブロック別講習会資料」より抜粋

良好な
景観形成

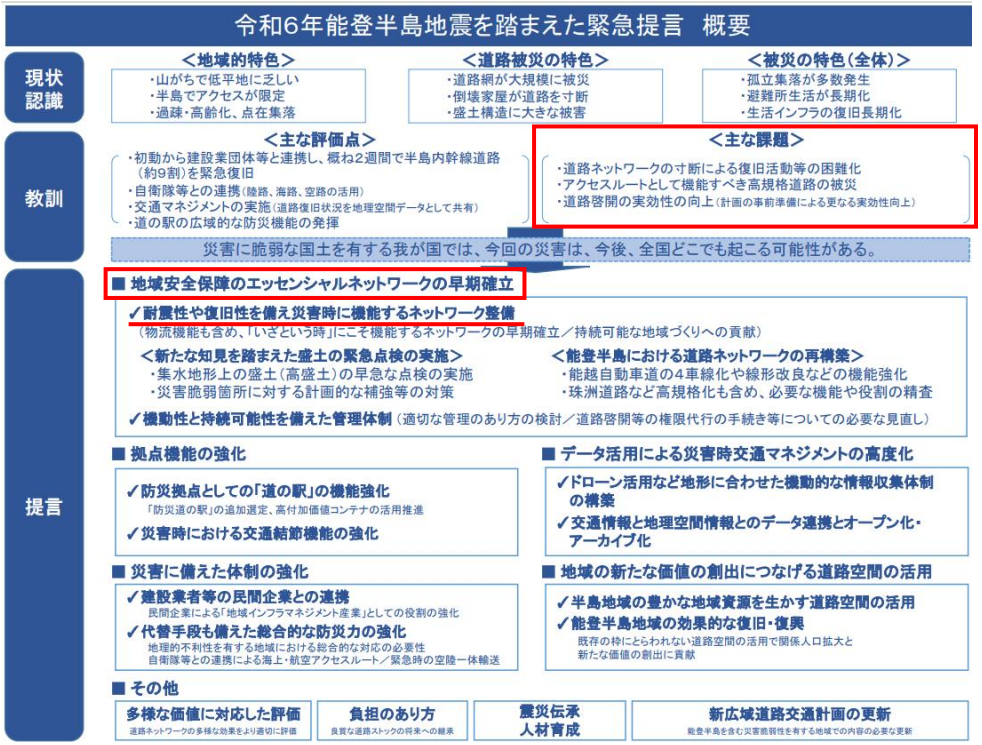
※「令和6年度無電柱化推進に関するブロック別講習会資料」より抜粋

2.　無電柱化事業における現状と課題

(2)近年の全国的な被害

○ 平成30年 台風21号 ➡ 大阪府を中心に1,000本以上の電柱が倒壊。
○ 令和元年　台風15号 ➡ 千葉県を中心に約2,000本の電柱が倒壊。
○ 令和6年能登半島地震 ➡ 約3,100本の電柱が倒壊。

➡ **道路ネットワークの寸断**による復旧活動等の困難化



▲令和6年能登半島地震の踏まえた緊急提言　概要

▼平成30年 台風21号　　▼令和元年　台風15号

▲令和6年能登半島地震

2.　無電柱化事業における現状と課題

(3)熊本市における無電柱化事業の状況

- ✓ 昭和60年代初頭から全国的に取り組み
- ✓ 本市においても、中心市街地の商業地域や緊急輸送道路などを対象に整備
- ✓ 「熊本市無電柱化推進計画(R1策定、R4改訂)」 ※11路線 約12kmが対象
- ✓ 現在は、防災・減災の観点から、主に緊急輸送道路の整備を実施
- ✓ 緊急輸送道路の無電柱化完了延長：約24km（R7.1月末時点）
  ➡ 市内の緊急輸送道路延長170.6kmに対し、約14％

2. 無電柱化事業における現状と課題

(4)熊本市における無電柱化事業の課題

【課題①】 事業期間の長期化

✓ 電柱を抜柱するまでに、平均7～10年(400m程度)要する

※本市事業においては、10年以上期間を要している箇所もある

(要因)手続きや協議が煩雑

・ 入札手続き等により、各段階ごとに工程の切れ目が生じる

・ 発注者が、多数の占用事業者、コンサル、施工業者、電線管理者等とそれぞれ協議

・ 試掘の結果、埋設管の状況等により設計変更の必要が生じる

➡ 修正設計委託を別途発注することで施工が遅延

2. 無電柱化事業における現状と課題

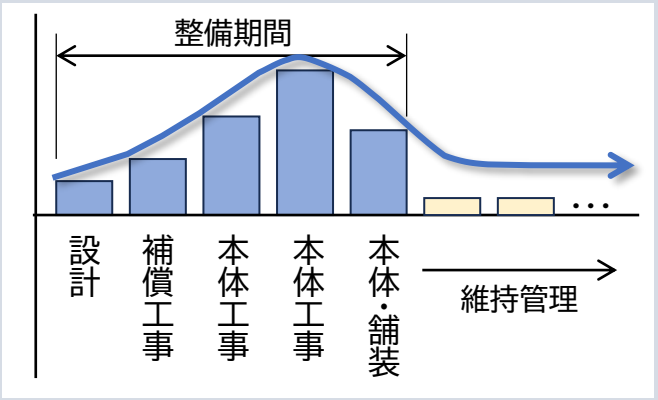
(4)熊本市における無電柱化事業の課題

【課題②】 計画的な維持管理が不十分

- ✓ 電線共同溝は整備後30年以上経過
- ✓ 維持管理計画がなく、定期点検や補修が実施できていない（事後保全的な対応のみ）
- ✓ 仮に点検や補修を実施しても、統一的なデータベース化される仕組みがない
  （各業務ごとに成果品が存在する状態となる）

【課題③】 整備費のバラつき・維持管理予算の確保

- ✓ 年度ごとの財源も限られているため、
  工事が分割されてしまう（分割により、コストも上がる）
- ✓ 整備期間においては、段階ごとに必要予算がバラつく
- ✓ 点検費用を経常的に確保できていない



【課題④】 人材不足

- ✓ 公務員の成り手不足により、各関係者との協議・調整、工事発注などに従事する人員が慢性的に不足

2.　無電柱化事業における現状と課題

(5)課題解決に向けて

新たな発注方式 により課題解決ができないか？

効率的な
協議や調整ができないか？

設計や工事の手戻り
(修正)を減らせないか？

工事の分割数を減らして
コスト縮減できないか？

事業に対する事務量を
減らせないか？

予算の平準化
ができないか？

計画的な維持管理
への転換ができないか？

「包括発注方式」の導入可能性を検討

3. 包括発注方式について

(1)包括発注方式のイメージ

※「令和6年度無電柱化推進に関するブロック別講習会」国交省提供資料より抜粋

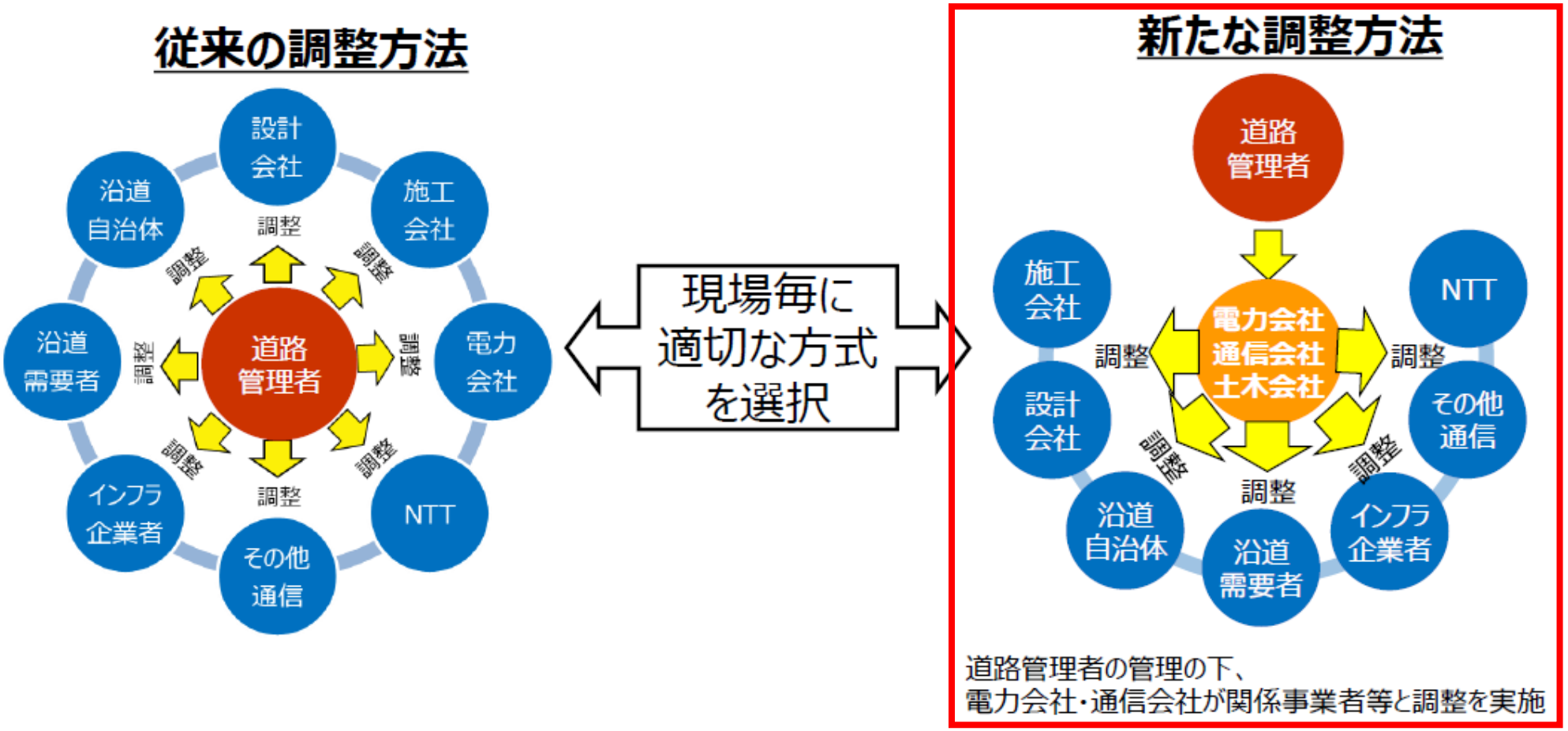
方式	役割分担(案)		特徴
従来方式	官	設計協議(沿道、電線管理者、占用者)、移設補償、工事監理、各種調整、維持管理	・設計から工事迄各段階で民へ委託 ・各段階での協議や調整などを全て官側で実施
	民	詳細設計(コンサル) 移設工事(占用者) 本体工事(施工業者) 引込管工事(電力・NTT) 抜柱	
包括発注方式	官	包括委託の契約 移設補償、維持管理	・設計、工事、事業調整を包括して民へ委託 ・本体工事着手後の試掘、修正設計、占用事業者調整等の事業期間を短縮 ・既存ストック活用方式は協定に基づく委託
	民	(包括発注) 設計協議(沿道、電線管理者、占用者)、工事監理、各種調整 詳細設計 移設調整 本体工事 引込管工事 移設工事 管理者 抜柱 電力・NTT	
PFI方式	官	PFI事業の契約 移設補償	・設計、工事、事業調整、維持管理までを包括して民へ委託 ・年度毎に分割していた工事をまとめて発注し、工事毎の契約期間を省略し、事業期間を短縮 ・適切な割賦期間を設定 ・既存ストック活用方式以外にも拡大
	民	(PFI事業者) 設計協議(沿道、電線管理者、占用者)、工事監理、各種調整 詳細設計 移設調整 本体工事 引込管工事 維持管理 移設工事 管理者 抜柱 電力・NTT	

3. 包括発注方式について

(1)包括発注方式のイメージ

✓ 電線管理者などが道路管理者の窓口となり、すべての設計・施工を一体的に実施

<一体的な事業推進イメージ>



※「令和6年度無電柱化推進に関するブロック別講習会」国交省提供資料より抜粋

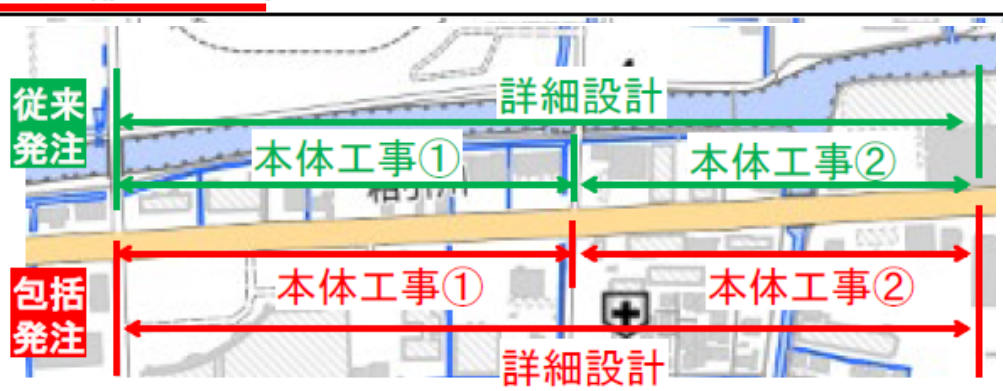
3. 包括発注方式について

(3)包括発注方式による効果(国直轄事業の例)

○国道11号高松町地区電線共同溝では、詳細設計、本体工事、引込管工事等を一括して契約する包括委託方式により事業のスピードアップを図った。
○包括委託方式では、本体工事と引込管工事等との同時施工による短縮により、従来発注方式と比較して、事業期間が約16ヶ月短縮された。

○概要
・箇所:国道11号香川県高松市
・延長:0.94km

○特徴
設計から施工まで切れ目のない施工により事業期間を短縮



発注方式	工種	1年目	2年目	3年目	4年目
従来方式	詳細設計	契約 業務	業務		
	本体工事①		契約	準備 工事	
	本体工事②			契約 準備 工事	工事
	引込管工事			契約	準備 工事
包括委託	詳細設計	業務	業務		
	本体工事①	契約	工事		
	本体工事②	約		工事	
	引込管工事		工事	工事	

約16ヶ月短縮

※「令和6年度無電柱化推進に関するブロック別講習会」国交省提供資料より抜粋

3. 包括発注方式について

(4)PFI手法による割賦払い制度

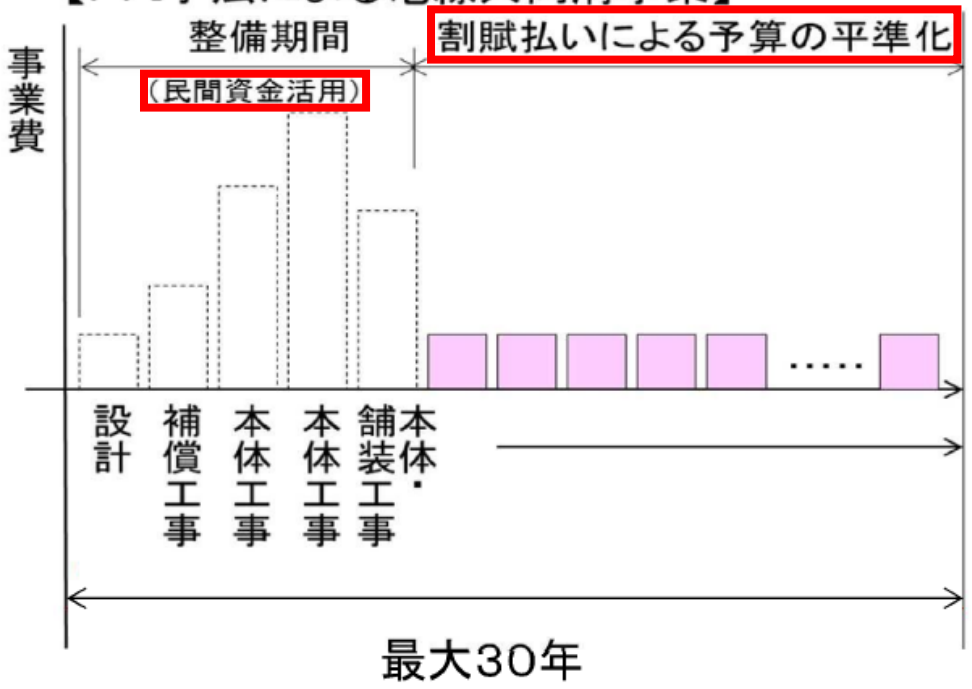
※「令和6年度無電柱化推進に関するブロック別講習会」国交省提供資料より抜粋

○ 予算の平準化、民間の技術・ノウハウの活用促進を目的として、平成29年度より、直轄事業においてPFI方式による電線共同溝事業を実施

○ 設計、工事、維持管理を含め包括的に委託し、整備費用は整備完了後に割賦払い

○ 令和4年度より、補助事業においても同様の方式を採用出来るよう制度を拡充

【PFI手法による電線共同溝事業】



○事業の内容

- 事業対象区域において整備する電線共同溝等の設計、工事及び維持管理を実施
- 電線共同溝等には、電線共同溝(管路、特殊部)に加え、それに伴う歩道整備を含み、通信・電力管路に敷設される通信・電力ケーブル、トランス等の地上機器は含まない
- 事業方式はBTO方式(Build-Transfer-Operate)を採用

3.　包括発注方式について

(5)課題解決の見込み

効率的な
協議や調整ができないか？

設計や工事の手戻り
(修正)を減らせないか？

工事の分割数を減らして
コスト縮減できないか？

➡ 設計･施工を一体的に実施できればクリアできそう

事業に対する事務量を
減らせないか？

計画的な維持管理
への転換ができないか？

➡ PFI事業でクリアできそう

予算の平準化
ができないか？

➡ 割賦払いでクリアできそう

包括発注方式 を導入できれば課題解決に繋がる見込み

4.　本日の意見交換について

①　率直な感想

・PFI導入を目指して検討を進めるべき　　・受注者側としてメリットが見いだせない　など

②　「包括発注方式（PFI含む）」導入した場合の　メリット　・　期待できること

・大規模ロッドとなれば、受注者としてもやりやすい　　・手戻りがなくなり、工事が長期化しなくなる　など

③　「　　〃　　」導入した場合の　デメリット　・　生じうる問題　・　懸念

・●●という点が会社として参入しづらい　　・長期に渡る債務となるが、予算の担保はとれるのか　など

④　「　　〃　　」以外の解決方法（ご提案）

・●●市では、●●●●により課題解決を行っているため、参考にしてはどうか　など

⑤　その他（ご質問など）